

Handwritten text on a vertical strip of aged paper, likely a title slip or label, containing characters such as 孔子 (Confucius) and 子 (child).

825-4

俳諧資料カード	
年代	享保八 乙酉
編者 (筆者)	子 子 子
書名	子 子の会
備考	

(下垣内蔵)

桔槔の出来ははるかと祖ののちの深澤の  
かきまはらして大星先人宋名経流き  
雅志をもちて天年一帖ふりむ  
他善に報恩實に義を著せしむ  
都鄙の朋人共々つて四時の文章草草  
はる小と八邊のたむらひにむす  
中は二百ほれはるふはるす  
時雨をふりて窓あり月を契潤の

吳市阿賀北五丁目三十三番六号  
下垣内和久  
737



恩のたまはるるに於て枯の葉と表の  
つらと祖師の記念のしるしを  
けり他の國よりけりししるしを  
田原くちると自身を公卿と  
しるしをけりししるしを  
福にしてそはの身よりけりししるしを  
むら之身よりけりししるしを

甲府府西轉全  
海徳

文政八年十月十二日

奇洞

孝のたふ小松聖はくちん十二日

爰に福とふ時西はん花

鈴の音る借す人の近つ来て

夜はゆやうおひさきと来夏

拵子のほりぬきと来紫花咲

川鱈つる小松内乃服

秋中おとら月の眉不と小

鼎左

備箇

奇洞

外海

友之

春大

大勝くろ 袋ひるるほらん 曾洲  
 駕りきむ容すちふもきけりり 出水  
 近こく 伐る標 花さく 物品  
 五うらけ古 つる俵おハする 米固  
 ち〜めこうりて 筆もほるとら 籟葉  
 喧をてく人を 扱ふりらハきん 兼江  
 つきあけ 寝も あハぬく〜き 秋 故友  
 春々 今あるとら〜く 氷を汲 水石  
 下流く 中初る 夢あるの 夢 夏也

沼のこく 花とま〜き 山の奥 巨鯛  
 一心 不 乱 初る 慮き 花 白鮫  
 家蔵乃 櫻木のつ〜のこさ 虫 月窓  
 菊の 帝ウに 受 領ゆ〜これ 業敵  
 太刀 直乃 及 才 一 月の 余波 たる 其姓  
 いらの 清 嶽 一 時 産を 或く 免時  
 四十 ころ 後ハ ころ つ〜 延ぬ 髪 正一  
 湯 岩の 穀に やと したる 葉 奇梁  
 くら 妻の 結に 中〜と 著と ねを 戸曉

陸の冷ふ嵐 飛りつくこ 枝  
 海にのれを 登を扱も 戸をく 瀧  
 波くくくく 葉玉の 系  
 道生の中 乃あふを 忍んそ  
 けらとく 注けらとく 筆注  
 切とり 鯨を 控てゆと じ  
 えり 鳥りち 鳥や ち  
 大糸と 見る 狸の 威けり  
 けらり 上り 投る 盃  
 千枝  
 瀧  
 和角  
 孫圃  
 長  
 高野  
 佛堂  
 貞徳  
 白洋

一頃下畧

大黒店乃品忘る

町角きの 雲あらしと 晴るす 大坂 呂浦

海くくく 舟て五り 舟のき いせ 筆村

たきを 鳥や 腸 焦す ねもす ぐら 塔西

核枝の 鳥もく 八 町角 ぐら 李山

下弦 傘の ちり ねも ぐら 翁の 日 和川

香燼も耐るたりたるふゆの日 香燼

たさをとよかとくくぬる 重祝 吾同

お月祥前表六句揚明

耐るまの途ことくくぬる 其梅

赤カ飯とく紫乃 おと

飼ねのつる女子放寸侶行て

竿のあつるをぬ夕ふまきく

月如く銀巴くくらすくくく

きりく 冷く茶と焼く

精之れ、ほ、不と山終神くれ 山陣 園蘭

のの本やうあまのくく守少 時雨 吾て

人並く 秀くゆらせは 念の目 懐玉

とぬ冬を とふ秋 はや十二 金柳

結ゆ まよ や耐る 力青もあ く儲る 就之

深津菜ゆるおとく

あつるや耐るまめき く 夕く の葉 福山 李形

葉の世 く 葉の いろ く き 式外 いせ 木精



様のおまのりくきりや時をのり

大和 一壺

白きりらりしきりらり

いさ 様

いりり様りいりり

いさ 様

つらつらやきりらり

いさ 二壺

空様り焚ありきり

いさ 乙夜

神りくおいりりり

大坂 様

おりりお葉のさりやきり

かんこ 川

嘆のりきりりははり

雪 様

白粥りねきりりり

いさ 非玉

まりりり五りり漢乃小名を記

大坂 月名

木のりりり佛りりりり

いさ 寺

お町りりり大両りりりり

いさ 一壺

島りりりりりりりり

大坂 寺

何りりりりりりりり

いさ 夷崎

寺様の光りりりりり

いさ 正名

やの影りりりりりり

いさ 月始

耳りりりりりりりり

いさ 角

人甲の人はさくさくあつ時るり  
いせ 和風

柚さくさくつり山りむ時あ  
いせ 斗泉

柿乃さくさくつり山りむ時あ  
いせ 佐保

高きさくさくの茶粥の抜りす  
いせ 井室

一さくさくさくさくさくさくさく  
いせ 五枝

高きさくさくさくさくさくさく  
いせ 小鱗

竹あさくさくさくさくさくさく  
いせ 一秀

高きさくさくさくさくさくさく  
いせ 夢文

白濁さくさくさくさくさくさく  
いせ 非

舟の火のめえつりやきり  
いせ 鼎方

高き乃さくさくさくさくさく  
いせ 品細

高き乃さくさくさくさくさく  
いせ 方

高き乃さくさくさくさくさく  
いせ 細

高き乃さくさくさくさくさく  
いせ 方

高き乃さくさくさくさくさく  
いせ 細

高き乃さくさくさくさくさく  
いせ 方

高き乃さくさくさくさくさく  
いせ 調



落葉ふむ大波や雪の朝もあ  
竹柱

米くしくもゆや茶葉川  
雪に

落葉くく月あ〜山あふ  
春樹

ひら落葉おぼの浪あ乃溢り木  
奇川

やまー木葉乃雨も若葉  
風尾

新〜あ〜笠〜〜木葉  
葉園

朋友の葉を矢り〜に

あま〜てあいつ〜やまあ〜  
令柳

夕るふカの入て柳のうぶ〜  
古柳

夕風や木葉乃外のうぶ屋も  
東茶

子あれてや法の灯〜さ〜  
調調

あ仙や標命て杖ふ指の寸〜  
子犬

さる菊やとちと隣〜門り〜  
嗽石

へほ〜ゆぬ友ま〜か〜木を  
令柳

介〜りのりの〜根柢の花  
路眺

山〜けや水四乃〜を〜ちとり  
佐保屋

戸の水すむやまきのありく乳  
戸東

尺あ〜〜〜あちとり  
秀女



袴着のよららひのあやまの中

時露

故々乃志らるる縁一はは

貞緒

阿那のせめりてあはれ月相あり

日而

尖りて果らつてゐる鶴松

野楊

杖う探る袖乃ちりや月あふ

朗潤

あしらもゆりてゆもさるる

西芳

とそらひもゆり拍子にとらあふ

一帯

おしらりまをを写るるそらひ

月窓

あふとゆり花さくやあふの糸

素流

おま乃富士のけのるる屋せりん

土佛

あふとゆりあふり星のとふ

陶器

あふりて人足とすあふの月

硝石

あふの萩桶干はあにやらま

奇洞

あふりや井戸の深さをすくあ

和角

あふりやらるるあふり形舎の街

栲園

あふり寸あふりもやあふり種

足跡

あふり結のちにつくし和の時

手紙

あふり水甲ゆりあふりあふり

若助

口とらん雪乃を山川にけりて

山口

雪の車ゆりて押す此情ある

一壺

うきかゝり雪や又もは氷の層

奇洞

板乃雪倉うつまてしらくはる

る深くし人のおし守初雪の雪

南亭

うちをりし雪むらんこ雪乃影

東雨

雪の下跡こりりて五家あるれ

枝也

大雪にたれて凍る寸山家も

雪風

ありあふと雪乃あけし雪の丹

東菴

二ノ下

雪とて心とて雪乃とき大外

明々

遠あはる雪をばあといきんれ

其梅

雪うしけ弁や山雲のあさ梅け

梅岳

雪の露る板はあふなりて雪はら

麦雨

雪乃戸中物をまゝりし海十歩

荷几

紅ちかゝる雪うとありし吹雪うま

全柳

月のある雪や新しむるあす梅

嗽石

初めくこゝも志突たり命倉

鳳尾

魚活て簞一し抄るきり南

奇山

空まじりやそりしききるお乃き

占山

小借らり風一記りきり入

一瓢

移乃花露一居り一暖ありり

一瓢

暖くけて色七りあるつりまを

蒲室まきそ息のあきやを接

きの柿けりうつ智の息りける

少乃襟先父母にこそせりり

この人此危揮を守々の穉

品調

一瓢

魯石

奇山

一瓢

穉梅の香をきりりや宮乃上

一壺

穉梅やけしうけくうき山のも

山路

穉ハや柿、香のほる。粥は酒氣

負徳

ちちくま親くくけハあるく

自駕

田鶴とけや輔ゆてあふ寸綱子うき

月窓

うつまじり餅一丈地をきりあり

全柳

火をいりて暖あきりりりりりりり

三海

不足あす葉のうら枝やと一乃春

一瓢

世乃ちりのちりも笑みて米説

朗調

以とーやうしーは乃破 一瓢  
ゆくや考者乃業もすくひふ 月窓  
ほくふく白梅咲ぬとーのう秋 果雪

大蔵宗三軸をとうきりて 一壺

三日経り

通了権

こゝろふも権の吉ふやちのりち 呂洞

かじ川を、信幸を記し 十月廿五日

い二日茶葉もわぬ信幸を

暖湯にやうしーあふ

お茶をて叶ふ乃返はあ〜山

こく〜乃暖湯をく日山 奇洞

大澤

信、信を押のり〜てハ勢乃うく

菊、島

独、荒、一、家、お、く、野、を、菊、々、崎

天、味、四、車

天和四年  
且 弟 蕉 彦 克



けいけい おまけのついで  
そののち 彦彦 一巻  
いふあらしのやまの上も  
丹山めく おえ梅子

秋之



まゝにやまゝとてまゝとてまゝとてまゝとて

契運属

暮六そらいとほ登の冠のま

志おてあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

えりりあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

左保らぬり春うとくまのり日らん

まゝまゝ山吹おてらぬり不ば

てゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

知能やけ何人乃こゝろ神

あゝあゝあゝあゝ

奇洞

志仙

出火

野郎

全柳

奇洞

一瓢

まゝにやまゝとてまゝとてまゝとてまゝとて

まゝにやまゝとてまゝとてまゝとてまゝとて

まゝにやまゝとてまゝとてまゝとてまゝとて

まゝにやまゝとてまゝとてまゝとてまゝとて

まゝにやまゝとてまゝとてまゝとてまゝとて

まゝにやまゝとてまゝとてまゝとてまゝとて

まゝにやまゝとてまゝとてまゝとてまゝとて

まゝにやまゝとてまゝとてまゝとてまゝとて

まゝにやまゝとてまゝとてまゝとてまゝとて

布雪

櫻圃

貞徳

何丸



梅折るハあはれて亦山や山の土

江戸 史子

一木ニ木をてきてきりーうめのむ

大津 九畢

月とこころをけりてさうり梅花

江戸 木精

おのびる一木すや梅の枝の枝

江戸 兩籟

黄を重乃陽を氣ふすらん梅花

梅子

中、梅やあはるすしの五の角

美味

株のうけもあはる力乃拉しむ

つらりり乃月ハなられと梅白

素意をのさむきをきの時

月窓

西渡の梅咲き乃枝より香は新

大坂 香洞

月山乃小川あてつらりりの水

大坂 屋鳥

梅くや大ききととる針の的

大坂 文翠

夢とんととち出さるハ船の内

一壺

きりて地をりりるなり新乃梅

大坂 野楊

焚くりの輪廻てりけやハ花梅

大坂 倉

位吉乃くくくらの香と針ころ

奇山

清繁芳考然人

くめくのあはるくくくや月の香

つら目の有ひろふやうゆ花

奇沢 大坂 寛文

よこしし色をちかきて梅はる

秋平

木あけてり香しすくや門の雪

夙也 京

向梅や白さる木の二枚あか

和角

まはやくや甲子あくる山の春

琴止 ハリテ

うめくもつらてまゝさくはるう又

鬼柳 心カ

白雲やふいとふさる影の埃

毒岳 秋野

きつねのきしし柿の香かく小川

井月 秋野

風呂のいて実るつ方の新し

芦角 今作

うめしちもやしなへのやみき

一壺

上はとも思はるる人にある事か

天由 弁士

雨ふれてまはれゆくをさす神ふ

一瓢

雪ふりハ流れ次弁や素ふく

毒屋 大付

垣うしし水さる家のやみき

松扉 いせ

湖のさししくやさる事うめ

斗泉

ありしるや岩波の柳きまゆめ

千鶴 天坂

春舞の中にうつく神すか

素潔

かりくるこころ物いゆりりり

東雨

稀人乃其る日七ありぬら替 一岐 盛住

遠くく口のさへ山やあり替 後帆

一寸ちハ新しうむむや玉つはま 九泉

人の子を呵うて通る替 大坂 月下

親此とめ替きくく日れさくか 大坂 暮以

傳る寸の内あけてまをうらハま 高洞

嶽さふー舒く替りあうらみ 三ツ 巨洞

君り代をうらふホとややく替 大坂九年 礎山

嗣伽痛小並へておくや若つは 大坂九年 奉泉

お村アアをうけと替のふ 一岐 如常

お妻乃ははをうけお月日 喜洞

おまろくくくくくくくくくく 大坂 知常

おや和系くくくくくくくくく 大坂 知常

くくくくくくくくくくくくく 大坂 篤光

おや知のうけも日くくくく いせ 宗柳

お名のかくくホハ枝も幹も いせ 宗柳

お産ふくおを額あか いせ 宗柳

おはらめお木るくくくく いせ 宗柳

米団

礎山

吳山

宗柳

篤光

知常

喜洞

如常

奉泉

礎山

巨洞

高洞

暮以

月下

九泉

後帆

盛住

春の香はちとこそ蘇入りり  
 氏人  
 其梅  
 奇川

七又くら和思

舟の北を遂へてあるや春の風  
 自樂  
 尊石  
 特音

春の風や投た忘の岸りん  
 一歌

愛宕の山

大系や抱るもふ春の香のぼる  
 梅甫

春の風や暖さくゆるむ雪の穴  
 自突

頬打てくれハ肥うるも月  
 春峰

懐

野さくーたり岩屋



吾久もや人へさくーとまきの月

新酒

まきの月報うちくー舟のうは

船

海もくえん山もくえんくー掛 月

と海

小豆煮る火乃きくーけや挽く

豆岳

かふろ和やのりくーあかちん字

左梅

くろふのくつや響のり菊水

氏人

赤糸のつて突こおろす

其旗

舟の糸の落る糸あり夕露

梅南

坊うらをりきくーるももらすむね

山原

山はよやういふもいふもいふもいふも  
時向花

訪梅甫又函

糸ははるまじくへハ梅ははるまじく  
登山

糸ありて山の年の水ぬるまじり  
一壺

ぬるむ水は杖の傍にまじり  
可照

みまじりては杖もむまじり  
嗽石

たさの月やこころはたさ  
貞流

年より雪もとりて通るまじり  
おの夏

通るもはの上りしこころ  
春峰

まほの根や悲つて歩り人  
西岸

縁香に地花やくらん  
香洲

唾吐て見てはるまじり  
香川

とくしと押あつてはけふ水  
朗調

山燈やまのこね乃あり  
あ洲

嵐山のあつてのや山をやく  
昇平

や月のかかりあつて  
可好

大まじりてはあつて  
梅子

まじりてはあつて  
あ洲

よき原

羽さうらハ念もくけー木さく

奇洞

虎杖の故ゆハ多しり春の草

一日くやく風さーえぬれ4

一瓢

并つむやまおろ志だる吹たり

梧園

やりのさむさのたのこーくれに

大坂 勇洲

たしく早だやなやむ要能やま

一瓢

等とくそきて直さすま

天由

文院の極のくつれや白

朗福

すくふつむありありと光ニ人

野楊

子蔵や案内よくあるなるの犬

素子

いよーくさうさるらるる君の鳥

負徳

人の氣あしそらんちりり木仏の光

琴止

ホ仏のまほほり外をわけてふ

おろ 耕六

奇禱か

七宝乃ひらつ 教るを 雲の光

奇洞

ひるの文ぬささうそおのり

大坂 三橙

春の夜もすく 祈るそゆく 染

大坂 公水

那のこくあまでびてりける居

加角

にふれふ家物小ものりきり

霞丈

十代田のしめ業はむきること外

呂紫

おとこもて花もついで様白

全物

夕つて日杜のちとふてふのたつ

月意

枝のこつあつていもや枝のほよ

奇洞

古口守の徳ちりここつてのちよ

カ、  
固井

日のしつて一糸くもあつて船は

ミナノク  
日人

秋とこのわつていもをちく垣

東雨

竹の芽を穂しておれはとち

呂洞

清障りのやうり藤葉川園外

乙鹿

蛙子や木橋子か花ころりら

了  
奇洞

双ふのよ也言きとんて暮乃時

奇洞

ひとら業乃教まうり鳴らひま

風尾

口は角あつたさうやつれす

風尾

川流の岸小つたなり

一歌

鶯子も花の山口おとゆ

一歌









